

重点1 毎日の授業の充実

1 学力の向上・授業改善

ねらい

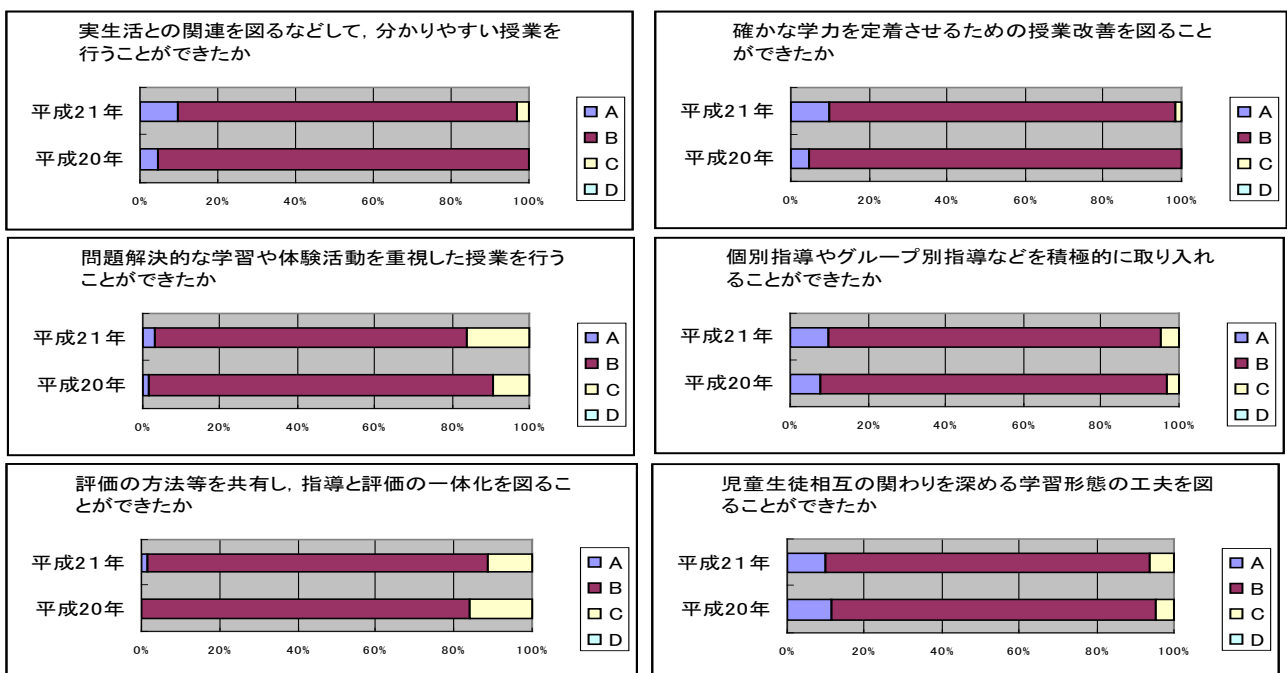
小中学校では、9年間の義務教育において、学校で学ぶことの楽しさを味わわせるとともに、一人一人の児童生徒に「生きる力」「共に生きる力」を育むように努めています。

特に、確かな学力の定着を図るため、「学び合い」を基盤とした問題解決的・体験的な活動を重視した授業、分かることの大切さやできることの喜びを実感できる授業をめざしています。

現状と課題

○ 小中学校における授業改善の取組状況

<全国学力・学習状況調査における学校質問紙結果から>



取組の意義や重要性が浸透し、「十分」と回答する率も上がってはいるが、「やや十分」と答える率も上がり、授業改善が十分に進んでいるとはいえない。特に「問題解決的な学習」や「個別指導やグループ別指導を取り入れた」授業、「関わりを深める学習」、つまり「学び合い」に関して課題が見られる。

今後の方向性

○ 「学びの一体化」による校区が一体となった授業改善

本市では、今後「学びの一体化」において、「幼稚園、小・中学校における研究課題と指導体制の一体化」を図ります。これは、幼・小・中が一体となって授業改善に取り組むもので、「学び合い」と「問題解決的な学習」をキーワードに、確かな学力（基礎的・基本的な知識・技能と自ら学び自ら考える力を兼ね備えた統合的な学力）の育成を図っていきます。

- ※ 「学びの一体化」：平成18年度から全市的に取り組まれている幼稚園、小・中学校が連携した教育
- ※ 「学び合い」：仲間とかかわる中で多様な考え方に出会い、自分の考えを深める学習活動
- ※ 「問題解決的な学習」：子どもたちが課題を見つけ、自ら学び自ら考えるなど、自発性を発揮する学習

主な取組状況

○ 全国学力・学習状況調査結果の分析に基づく授業改善

四日市市教育委員会では、平成19年度から開始された全国学力・学習状況調査の結果分析を、各年度、教育委員会ホームページに掲載し授業改善の啓発を図っています。

分析は、「結果概要」「各教科（国語・算数数学）の問題」「児童生徒質問紙の調査結果」「学習状況と学力の相関」「学校質問紙の結果」などを、全国の調査結果と比較するなどして四日市市の子どもたちの現状を明らかにするとともに、今後の授業改善に向けての指導事例や今後の取組のポイントを掲載しています。

また、各学校においても、自校の調査結果から子どもの学力の強みや弱みを明らかにして授業改善を図るとともに、学校だよりなどを通じて情報発信し、学校教育への理解・協力や家庭との連携を呼びかけています。

平成21年度全国学力・学習状況調査結果の分析（抜粋）

< 総括 >

- ① 各教科で、「知識・技能を活用する力」を身に付けるための授業改善に取り組む必要があること
- ② 各教科で、言語の能力の高め、思考力をはぐくむための授業改善に取り組む必要があること
- ③ 学力の充実と心の育成とを両輪とした指導により、規範意識の向上や生活及び学習習慣の定着などを図る必要があること
- ④ 調査結果を学校全体で分析・活用するとともに、情報を発信して家庭との連携を図る必要があること

<取組のポイント>

【タテのつながり】—9年間を見通した教育課程及び系統的な指導の工夫を図る—

- ・学年間の連携
- ・小中学校の連携（学びの一体化）

【ヨコのつながり】—各教科との共通理解を図る—

- ・言語の能力の向上
- ・仲間づくり
- ・道德教育の充実

【家庭とのつながり】—生活及び学習習慣の定着を図る—

- ・情報発信
- ・意見交流
- ・相互理解

（教育委員会ホームページ <http://www.city.yokkaichi.mie.jp/kyouiku/joho/gakuryokuh21.html> から）

○ 毎日の繰り返し学習の位置づけ

学習指導要領の改訂によって、教科の授業に位置づけることが可能となりました。これにより、漢字や計算、読書など、10分間程度の活動を継続的に取り組むことで効果が期待できる内容を中心に、「朝の読書」「朝の学習」等の名称で、毎朝1限目が始まる前に学習を取り入れる学校が多くあります。また、特定の曜日の放課後等に、補充的な学習を取り入れて実施している学校もあります。

<小中学校における始業前の学習時間の設定状況>

